

○地域協議会での意見及び対応（反映）状況（R3年度の取り組み）

協議会開催日	委員属性	委員からの意見	対応（反映）状況
R2.8.21	医師会	地域医療連携を強化し、地域の住人の健康維持に貢献してほしい。	コロナ禍において、参集しての健康講座ができない状況が続いているため、健康講座を動画にし視聴できるように公式YouTubeを立ち上げ、3つのテーマで動画配信をした。
R2.8.21	医師会	地域医療連携を強化し、地域の住人の健康維持に貢献してほしい。	名古屋市南区役所（地域包括ケア推進会議・高齢者孤立防止対策部会）主催の「みなみシニア大集合」のイベントに当院が参画し、8000枚のイベント用紙に「かかりつけ医を持ちましょう」という中京病院の記事を掲載した。また、イベント参加者への粗品とともに郵送される用紙には、「腸活！免疫力を高めましょう」という記事と地域健康講座の動画にリンクできるQRコードを掲載して、応募された地域住民800名程に健康に関する情報提供することができた。
R2.8.21	医師会	COVID19をはじめ、地域医療の中心として頑張ってもらいたい。	愛知県のコロナ病床拡大の要請により、1病棟をコロナ専用病棟に変更したり、フェーズの状況に応じて、その都度、院内体制を整え対応した。 また、コロナワクチンについては、連携型医療機関として団体型医療機関のワクチン接種会場としてワクチン接種に貢献したり、クリニック等へのワクチンの小分け対応し、接種施設への協力を行った。
R2.5.15	関係医療機関	タイムリーな情報連携と地域医療の貢献をお願いしたい。	エムスリー株式会社が運用する地域医療連携支援サービスを利用し、中京病院の診療科から連携医の先生方に情報発信を開始した。当院が積極的に診療に取り組んでいる疾患にフォーカスを当て、疾患の概要・当院が提供する医療の特徴・ご紹介いただきたい具体的な患者像をお知らせしている。
R2.5.15	関係医療機関	COVID19で大変だが、引き続き地域医療連携の強化をお願いしたい。	コロナ禍であったが感染状況を見ながら、地域連携室訪問を40件、院長挨拶訪問45件、インターネット予約システムのセッティング（再設定含む）100件、がん地域連携の訪問35件、月間中京の取材訪問5件、計225件開業医訪問した（電話訪問10件含む）。登録施設・登録医数を増加させることができた。登録施設914件（昨年度888件）登録医数999名（昨年度969名）になった。
R2.5.15	関係医療機関	タイムリーな情報連携と地域医療の貢献をお願いしたい。	連携施設からご要望いただいていたID-linkのシステムの延長としてのカルテ開示について、関連部署で協議を重ね、以前から情報公開している患者基本情報、入院期間、処方オーダー、注射オーダー、画像オーダー、検体検査結果、細菌検査結果、退院時要約、画像、画像読影レポートに加え、「医師診察記事」「看護記録」「入院中バイタルチャート」を2021年8月から情報公開した。
R2.5.15	関係医療機関	タイムリーな情報連携と地域医療の貢献をお願いしたい。	インターネット予約システム（カルナコネスト）利用施設を対象としたHPKI電子署名機能の電子診療情報提供書の運用を開始した。開業医院・クリニックにとっては診療情報提供書を患者さんに渡さなくてよい、患者さんは診療情報提供書を受け取り持参しなくてよい、当院は事前に診療情報提供書の原本を受け取り情報を得ることができる、という三者すべてにとってメリットがある。

R1.11.15	医師会	医療介護分野での地域包括ケアをしっかりと良いものを作りたいため、協力をお願いしたい。	急性期病院と老健施設・特別養護老人ホーム等の施設との連携会をオンラインで開催した。今回は「必見！実は病気が隠れているかも？排泄ケア編」のテーマで開催した。オンライン開催したことにより、コロナ禍前に参加されたことのない施設が研修会に参加していただけた。事後アンケートでは、交流という面では物足りなさを感じるが時間を有効に使える。業務調整がしやすく参加しやすいなどの意見があった。
H30.11.19	関係医療機関	病診連携を推進して欲しい。	今年度から緑区医師会と共催で緑地域医療推進研究会を発足し、年4回定期開催を開始した。緑区医師会の先生方と当院の医師の相互の学び合いの場とし、顔の見える関係性の構築と地域医療連携の強化に取り組んでいる。
H28.5.28	医師会	医療連携は病診連携だけでなく、病病連携も非常に重要になってくるため協力をお願いしたい。	2021年10月に当院は、がんゲノム医療連携病院に指定（がんゲノム医療中核病院である名古屋大学医学部附属病院との連携病院）され、がんゲノム医療を提供できるようになった。
H27.5.15	医師会	市民への健康・医療に関する啓もう活動活動の協力をお願いしたい。	がん相談支援センター「ひまわり」では、R3年11月からピアサポーターとのオンライン相談を開始し、患者支援を行っている。（ピアサポーターとは、がん体験者やがん患者を支えた家族）がん種によっては予約制になる場合があるが、通常は予約なし、無料で相談対応をしている。また、当院の通院患者だけでなく他院患者も対象としている。